

2021年度一般入試B入学試験問題

国語

(2月3日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

国語 1～19ページ

※ 地歴・公民・数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意事項 (各科目共通)

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は61ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 試験1時限目で国語を受験した場合、国語を選択できません。試験1時限目で数学を受験した場合、数学を選択できません。
4. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問一〜九に答えなさい。

意識は長期計画を立案する会社のCEOであり、日常的な業務のほとんどは脳のアクセスできない部分がすべてこなしている。巨大な優良企業を引き継いだCEOについて考えよう。彼には影響力があるが、自分が着任するずっと前からすでに展開し続けている状況に飛び込むわけだ。彼の仕事は、会社の技術が下支えできる範囲内の方針で、会社のビジョンを定め、長期計画を立てることである。これこそ意識がやることだ。意識は目標を設定し、それを達成する方法をシステムのほかの部分が学ぶ。

あなたはプロテニス選手ではないかもしれないが、自転車^Aの乗り方を覚えたことがあるなら、このプロセスを経験している。初めて乗るときは、ふらつき、倒れ、必死で理解しようとする。そこには意識が深くかかわっている。やがて、大人がそばで自転車を誘導してくれたあと、自分だけで乗ることができるようになる。しばらくすると、その技術は反射運動のようになる。機械的なものになるのだ。母語を読んだり話したり、靴ひもを結んだり、父親の歩き方を見わけたりするのと同じようになる。細かいところは意識されなくなり、アクセス不可能になる。

とりわけ印象的な脳の——そしてとくにヒトの脳の——特徴は、遭遇する課題をほぼどんなものでも学ぶ柔軟性だ。実習生がヒヨコ雌雄鑑別の課題で指導者に好印象を与えたいと思えば、彼の脳は大量の資源をオスとメスの区別に注ぎ込む。失業中の飛行機愛好家が国のヒーローになるチャンスを与えられると、彼の脳は敵機を味方の飛行機と区別することを覚える。この学習する柔軟性が、人間の知性と考えられているものの大部分を占めている。知性があると言える動物はたくさんいるが、人間とそのような動物との違いは、柔軟な知性をもっていて、目の前の課題に合うように神経回路を適応させるところである。だからこそ私たちは地球上のあらゆる地域で集落をつくり、生まれた場所の言語を学び、バイオリンを弾いたり、高跳びをしたり、スペースシャトルのコックピットでソウジ^Aウしたり、さまざまなスキルを身につけることができるのだ。

脳は解決すべき課題を見つけると、その課題をいちばん効率的になし遂げられるまで、自身の回路の配線をやり直す。課題がメカニズムに焼きつけられるのだ。この巧妙な戦略によって、生き残るために最も重要な二つのことを実現できる。

第一は X ^Bだ。自動化^Bによって迅速な意思決定ができる。動きの遅い意識のシステムを列の後ろに押しやらないと、迅速なプログラムは仕事ができない。テニスボールに近づきながら、ラケットを前に出すべきか、それとも後ろに振るべきか？ 時速一四五キロで飛ぶ物体を前にして、さまざまな選択肢を認識しながらゆっくり考えたくはない。プロのアスリートは迅速かつスムーズに判断を下しているのだ、彼らにはコートが「スローモーション」で見えると考えるのは、よくある誤解だ。ほかならぬ自動化のおかげで、アスリートは関連する出来事を予想し、何をするべきかうまく判断することができるのだ。新しいスポーツに初めてチャレンジするときのことを考えてほしい。経験豊富な選手が初歩的な動きしかできないあなた

を負かすのは、あなたが大量の新しい情報——脚と腕とジャンプする体——に四苦八苦しているからだ。経験を積むうちに、どういうひねりやフエイントが重要かを学ぶ。時間がたつて自動化されると、判断と行動の両方をスピーディにできるようになる。

課題を回路に焼きつける第二の理由は、Y である。メカニズムを最適化することによって、脳は問題解決に必要とされるエネルギーを最小

限に抑える。私たちはバッテリーで動く移動性の生きものである、エネルギーの節約は非常に重要なのだ。神経科学者のリード・モンタギューは著書『あなたの脳は〔ほぼ〕完璧』*Your Brain Is (Almost) Perfect*の中で、チェスのチャンピオン、ガルリ・カスパロフのエネルギー消費量が約二〇ワットなのに対して、対戦相手のコンピュータ、ディープ・ブルーの消費量は何千ワットであることに言及し、驚異的な脳のエネルギー効率を強調している。モンタギューの指摘によると、カスパロフは正常な体温でゲームをしたが、ディープ・ブルーはさわれないほど熱くなり、放熱させるために大量の扇風機が必要だったという。人間の脳の運転効率は最高なのだ。

①

カスパロフの脳がそれほど小さい動力しか必要としないのは、カスパロフが生涯をかけてチェスの戦略を効率的な機械的アルゴリズムに焼きつけてきたからだ。少年時代にチェスを始めたときには、次に何をするべきかについて認識による戦略をゆっくり考えなくてはならなかった——が、考えすぎて後悔するテニス選手のように、とても非効率的だった。上達するにつれ、カスパロフはゲーム展開の道筋をゆっくり意識して考える必要がなくなった。意識の干渉があまりなくても、チェス盤をすばやく効率的に読みとれる。

②

人がテトリスのやり方を学んでいるときの脳画像を使った、効率についての研究がある。被験者の脳は非常に活発で、神経ネットワークがゲームの基本構造と戦略をモサク^イしているあいだは大量のエネルギーを燃焼していた。一週間ほどたつて被験者がゲームに熟達すると、ゲームをしているときに脳はほとんどエネルギーを使っていなかった。脳は前より静かなのにプレーヤーが上手になったのではなく、脳が前より静かだから、プレーヤーは上手になったのだ。プレーヤーのなかでテトリスの技術がシステム回路に焼きつけられたおかげで、ゲームに対応する専門の効率的なプログラムが走るようになったわけである。

③

回路に課題を焼きつけるこのやり方は、C 脳の働き方の基本である。脳は自分のマシンの回路基板を変更して、与えられた任務に合うように自らを修正する。そのおかげで、ぎこちなくしか遂行できなかった難しい課題も、迅速かつ効率的になし遂げられる。脳の論理では、「仕事に合う道具がないのならつくれ」が正しい。

【④】

これまでに私たちは、意識はたいてい課題遂行の邪魔をする傾向があるが、目標を設定してロボットを訓練するときに役立つこともあることを学んだ。おそらく進化的淘汰が意識のアクセス権をちよどよく調整したのだろう。少なすぎると会社は方向性を失うし、多すぎるとシステムによる問題解決が緩慢で鈍重でエネルギー効率の悪いやり方になり、行き詰まってしまう。

アスリートがミスをする、コーチはたいてい叫ぶ。「よく考えろ！」。皮肉なことに、プロのアスリートの目標は考えないことだ。目指すべきは、熱戦中に適切な作戦行動を意識の干渉なしに自動的に繰り出せるよう、何千時間という訓練を行うことだ。スキルを選手の回路のなかに押し込む必要がある。アスリートが「自分の世界に入る」とき、十分に訓練された無意識のメカニズムが迅速かつ効率的に事を取りしきる。フリースローラインに立っているバスケットボール選手のことを想像してほしい。観衆が彼の気持ちを乱そうと大声で叫び、足を踏みならす。もし彼が意識的なメカニズムで動いていたら、きっとミスをする。カジョウ^ウなほど訓練を積んだロボットのメカニズムに頼らなければ、ボールをゴールに入れることは期待できない。

【⑤】

本章で得た知識を活用すれば、あなたはつねにテニスで勝つことができる。負けているときは、対戦相手になぜそんなに上手にサーブを打てるのか訊^きけ^さばいい。自分のサーブの仕組みについてじっくり考え、説明しようとすると、彼女は完全に沈んでしまうだろう。

自動化されることが多ければ多いほど、意識のアクセス権が少なくなることはわかった。しかし、これはほんの序の口だ。

（デイヴィッド・イーグルマン『意識は傍観者である 脳の知られざる営み』（大田直子訳）による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 1、イが 2、ウが 3。

ア ソウジユウ

- (a) アルプスをジユウソウする
- (b) ジユウセキを果たす
- (c) 福祉予算をカクジユウする
- (d) クジユウの決断
- (e) 農業にジユウジする

イ モサク

- (a) 果物をアツサクし果汁を取る
- (b) 情報がコウサクする
- (c) 作文をテンサクする
- (d) 緊急のタイサクを練る
- (e) ネットでケンサクする

ウ カジョウ

- (a) オンジヨウあふれる言葉
- (b) ジヨウキンの仕事をする
- (c) シヨウジヨウを医者に伝える
- (d) 人員のヨジヨウが発生する
- (e) ソウジヨウ効果を生む

問二 傍線部A「自転車の乗り方を覚えた」プロセスについて、意識が働くのはどこまでと言えるか。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、

解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 4。

- (a) 初めて乗ろうとするまで
- (b) ふらつき、倒れ、必死で理解しようとするまで
- (c) 大人がそばで自転車を誘導してくれるまで
- (d) 自分だけで乗ることができるようになるまで
- (e) 自転車に乗ることが反射運動になった後まで

問三

空欄

に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

解答番号は、。

- ① Xが「プログラム」、Yが「バッテリー」
- ② Xが「スピード」、Yが「バッテリー」
- ③ Xが「スピード」、Yが「エネルギー効率」
- ④ Xが「スムーズさ」、Yが「エネルギー効率」
- ⑤ Xが「スムーズさ」、Yが「メカニズム」

問四

傍線部B「自動化」の説明として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- ① 意識を駆使して、経験から最適な方法を選択する。
- ② 選択肢から対処の仕方を選んだら、あとはそのやり方通りに進める。
- ③ 常に同じように行動すること、考えずに行動できるようにする。
- ④ 豊かな経験により、適切な行動を無意識のうちにとるようになる。
- ⑤ 直感に任せれば、無意識に行動することになる。

問五

傍線部C「脳の働き方の基本」の説明として、**適切でない**ものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- ① 動きの遅いシステムを列の後ろに押しやる。
- ② 意識的なメカニズムで動く。
- ③ 与えられた任務に合うように自らを修正する。
- ④ 仕事に合う道具がないのならつくれ。
- ⑤ メカニズムを最適化する。

問六 傍線部D「皮肉なことに」とあるが、何が皮肉か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、8。

- ① コーチは考えろと言うが、考えろと意識を働かせることになり、とっさの判断ができずにより多くのミスを生むことになる。
- ② 考えられないからミスをするのであり、そういう選手に考えろというのは無理な話である。
- ③ 考えるのは初心者段階であることであり、熟達者にとっては必要のないことである。
- ④ 選手は既によく考えているのであり、考えろと言うことで、モチベーションを大きく下げってしまうことになる。
- ⑤ 考えていてもいなくてもミスが起きるのは仕方がなく、防ぎようがないのである。

問七 傍線部E「対戦相手になぜそんなに上手にサーブを打てるのか訊けばいい」とはどういうことか。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、9。

- ① 相手にサーブの打ち方を訊けば、自分も同じようなサーブを打てるようになる。
- ② 質問をすることで間ができるので、調子のよい相手のペースを乱すことができる。
- ③ 相手に自分のサーブについて分析させることで、自分の欠点を意識しすぎるようになる。
- ④ 相手がサーブを打つときに、考えるようになり、無意識でやっていたよいプレーができなくなる。
- ⑤ 無意識でやっていることを説明しようとして、思考が混乱する。

問八

次の の段落は、文中の【①】、【②】、【③】、【④】、【⑤】のどの位置に入れることが適当か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、10。

こんなたとえを考えてみよう。戦争をしていた社会が突然、するべき戦いがもうないことに気づいた。兵士たちは農業に転向することにした。最初、彼らは戦闘用の剣で種を植える小さな穴を掘る——できないことはないが、非常に効率の悪いやり方だ。しばらくすると、剣を捨てて鋤^{すき}を取る。課題の要求に合うように道具を最適化するわけだ。目の前の課題に取り組むために装備を変更するのは、まさに脳と同じである。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

問九

この文章の主張に基づいて、経験豊富な者とそうでない者の違いについて述べたものとして、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、11。

- a 経験豊富な者は、体が覚えているから自然に動き、そうでない者は、体が覚えていないから対応できない。
- b 経験豊富な者は、経験したことを基に無意識に適切な行動ができ、そうでない者は、意識してよい行動をしようとし、タイミングが遅れたりミスが生じやすくなったりする。
- c 経験豊富な者は、経験したことに加えてよく考えて行動しているのでミスが少なく、そうでない者は、経験も考える能力も足りないからミスが多くなる。
- d 経験豊富な者は、迅速さも効率も身に付けているが、そうでない者は、効率はある程度身に付いているが迅速さには欠ける。
- e 経験豊富な者は、自分の世界に入り、他のものを排除して行動するが、そうでない者は、他者や環境に頼り支え合いながら行動する。

メ モ

試験問題は次に続く。

二

次の文章を読んで、後の問一～七に答えなさい。

哲学にかぎらず、対話・議論においてはさまざまな考えが対立し、ほとんど架橋不可能なものになることがしばしば起こる。具体的な政策レベルの対立や、その背景にある価値観の対立や利害の対立に私たちは直面し、それをどう超えるかについて苦慮することもある。

これらのさまざまなレベル^Aでの対立をどう乗り越えたり、^アチヨウテイしたりできるかということは重要な実践的課題だが、ここでは「哲学」という営みにおける信念対立をどうやって超えるか、という問題に焦点を絞って考えてみたい。

そのさい、ここで取り上げる「哲学」を X、という点について、あらためて確認しておこう。

哲学とは、広義においては、〈議論において、根拠が提示され各人がその正しさをドウサツ^イすることを通じて、合理的な共通了解を育てようとする営み〉である、といっておきたい。この広義における哲学は、自然科学や数学も含むあらゆる学問的営みを包括する。

しかしここで私が対象とする哲学、つまり「狭義」の哲学については、〈さまざまな種類の「よさ」(価値)について、その意味とその成立根拠とを根底から問いなおすことによって、合理的な共通了解をつくりあげようとする営み〉としておきたい。具体的には、認識の価値としての真、個々人の行為や社会的営みの価値としての善や正義、行為や物事の有用性、私たち各自が享受する美など、さまざまな種類の「よさ」(価値)が、ひとまず狭義の哲学の対象となる。

ちなみに、〈価値を根底から問いなおす〉ということを、〈哲学とは「そもそも」を問う営みなのである〉と言い直すともわかりやすいかもしれない。教育という主題について〈そもそも教育とは何をする事なのか。教育のもたらす「よさ」はそもそもどのようなものか〉と問うならば、これは教育の哲学となる。正義という主題について〈正義の基準は社会や民族によって多様だが、正義という観念はどんな社会にも存在しているように思われる。では、正義の観念はそもそもどういう根拠から生まれてくるのか〉と問うならば、これは正義の哲学となる。

私はさらに、以上のような「価値」の意味と根拠の考察に加えて、さまざまな「感情的体験」(嫉妬、不安、死の恐怖、さまざまな種類の喜び、エロティシズム、恋愛など)についても、それらのもつ意味やその成立根拠について考察することが可能であり、これらの考察も狭義の哲学の対象に含めたいと思う。ちなみに、ホップズ、デカルト、スピノザのような近代初頭の哲学者たちは「情念論」という名で人間の感情を考察してきた。人間性の考察には、感情の意味を問うことが欠かせないからである。

まとめるならば、哲学とは Y であり、それは最終的には二つの焦点をもつ。一つは「人は何を求めて生きているのか」という魂のあり方への問いである。もう一つの焦点は、社会のあり方への問いである。といっても、社会の状況を事実として確かめること(これは社会科学の課題であ

る)ではなく、社会正義や教育のような社会的営みの価値の根拠を問うことが哲学の課題となる。

しかし多くの場合、Z は、実を結ばない。【①】

たとえば「正義とは何か」という問いでもってワークシヨップを行ったとしよう。すると、この問いがあまりに抽象的すぎて、どこからどうやって考えていけばよいか、さっぱりわからないことがある。【②】

また、各自がそれぞれの意見（正義とはである）を表明しあうようにして、議論は進行するかもしれない。しかし、最初は他者の意見にふれること自体に新鮮さがあるとしても、さらに進んで、互いが納得できる「共通のもの」が見えてくるのでなければ、対話を継続する意欲したいが次第に失われていくことになる。【③】

このように、哲学の対話を進めようとする、「そもそも価値について、根拠を伴った共通了解などはない。それぞれの考えがあるだけだ」という懐疑的・相対主義的態度に陥ることになりやすい。相対主義にならないとしても、「これこそが真の正義だ」という意見（独断論）どうしが衝突し対立するだけ、つまり信念対立が起こって解消できない、という結果になりかねない。【④】

議論を空転させず、相対主義にも独断論にも陥らないためには、共通了解をつくりあげていくための「土台」が必要になる。すなわち、各人が「みずから確かめる」ことのできる土台をもつことが必要であり、そしてその土台は、無制限な遡行（根拠の根拠の根拠…を問い続けること）を停止させて、「確かにこれはこうなっている」ことを各人が見て取ることを可能にするものでなくてはならないだろう。【⑤】

（西研『哲学は対話する』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 12、イが 13。

ア					イ				
チヨウテイ					ドウサツ				
(a) 本番前にキンチヨウする (b) 山のチヨウテンに立つ					(a) 相手のドウイを得る (b) 中はクウドウになっている				
(c) 人知をチヨウエツする (d) ジュンチヨウな滑り出し					(c) ドウタイ着陸を試みる (d) 撮影したドウガを配信する				
(e) チヨウカイ処分の対象					(e) 工場でロウドウする				

問二 傍線部A「さまざまなレベル」を説明したものとして、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

号は、 14。

- (a) 対立が抱えている問題の大きさに関するさまざまな水準のこと
- (b) 日常の課題から学問的な問いに至るまでのさまざまな水準のこと
- (c) 具体的な問題から抽象的な認識に至るまでのさまざまな水準のこと
- (d) 対立が生起してから架橋不可能な状態に至るまでのさまざまな水準のこと
- (e) 哲学として議論される問題から利害の対立に至るまでのさまざまな水準のこと

問三 空欄 X に入る表現として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 15。

- (a) どうすれば理解できるのか
- (b) なぜ取り立てて問題にするのか
- (c) なぜ括弧に入れて強調するのか
- (d) どのような範囲のものとみなすか
- (e) どのような手順で日常に活かすのか

問四

空欄

Y

に入る表現として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16

- ① 人間のあり方について検討し、社会をよりよくすること
- ② 人類が追究してきた価値について、その意味を問うこと
- ③ 価値の意味を考察することを通して、価値観を共有すること
- ④ 提示される根拠に基づいて、合理的な共通理解を目指すこと
- ⑤ 価値及び感情について、その意味と根拠を根底から問うこと

問五

空欄

Z

に入る表現として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17

- ① 哲学の対話と議論と
- ② 魂のあり方と社会と
- ③ 哲学的な問いと実践と
- ④ 学者による問いかけと日常生活と
- ⑤ 筆者である私の努力と現実世界での活動と

問六

本文の内容と合致しているものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18

- ① 筆者は、正義について考えるワークショップを例に、日常に応用できる対話の秘訣^{けつ}を示している。
- ② 筆者は、哲学の歴史を踏まえながら、社会科学が対象とすべき課題について哲学的に考察している。
- ③ 筆者は、信念対立と対話が進まなくなる原因を説明することで、広義の哲学への提言を試みている。
- ④ 筆者は、価値を根底から問いなおす営みを例に、哲学が対立を克服しようとする際の考え方を示している。
- ⑤ 筆者は、教育と正義の例を示しながら、これらを対象にする哲学が発展するための具体的道筋について論じている。

問七 本文からは次の文が脱落している。この文が入る箇所として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

解答番号は、

19。

問いに答えるための手がかりがないために、「空転」するのである。

- | | |
|---|-----|
| Ⓐ | 【①】 |
| Ⓑ | 【②】 |
| Ⓒ | 【③】 |
| Ⓓ | 【④】 |
| Ⓔ | 【⑤】 |

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問一～七に答えなさい。

はじめてその老婆を見たのは、まだ空襲による焼けあとがなまなましく残っている頃だった。一九四七年ぐらいのことだろうか。

城の外濠（そぼり）のへりに私立の制服を着た女学生が二人立ち、身体で関心を示しながら前の方を見ていた。何だろうか。好奇心を持った小学生のわたしは、その視線を追った。

一人の老婆があるいていた。真赤に灼やけた焼夷筒（注1）を杭代（くい）りにした甘藷（かんしょ）の畑が続いていて老婆は前のめりになってあるいていた。痩やせていた。

X その姿は遠ざかりつつあった。〈なんだ〉わたしは思った。〈ただの婆さんじゃないか。なにがおかしい〉

眼を離して行ってしまうおう、としたとき、うしろ姿が何かにつまずきでもしたかのように、がくつ、となるのが見えた。どうしたのだろうか、と思っ

て見ていると、彼女はくると向き直り、わたしたちの方へむかってもどつてくるのだった。老婆はどんなもどつて来て、わたしたちのすぐ前までやって来た。行きすぎるか、と思うと、またすくむようにして立ちどまった。くると向き直ると、また、わたしたちから遠ざかっていった。

呆然（ぼうぜん）とした。この老婆は、いったい何をしているのだろうか。そのうしろ姿を見つめていると「あれじゃ、ずいぶんエネルギーをシヨウモウするわ

よ。たいへんねえ」という声が聞こえてきた。わたしは釘づけになったようにその姿を追った。やがてまたくるとむきをかえるのが見えた。

しばらくして、この町にも馴なれてくると、この老婆が〈おもどりさん〉というニックネームで呼ばれていることがわかった。いったい何時（いつ）の頃からなのか、だれも教えてくれなかった。彼女は、町を歩いていて、なかなか目的地にたどりつけない Y ひとだったのだ。どこかへ行こうとして

も、どうしてもあるところまで行くともどつてしまう。もどつていくとまた先に行けなくなってもどつてしまうのだ。

小学校を卒業して中学生になっても、おもどりさんの姿は、路上で見かけた。いつも一人だった。家族のひとはいないのだろうか、と思った。

「なあ、おもどりさんはどうしてもどるんだろう」

わたしは友人にたずねてみたことがあった。その友人は答えた。

「だれだったか、たずねてみた人があるんだよ。そうしたら、ちゃんと理由があるんだって。〈わたしが行ってみたら、藪（やぶ）があつて蛇（へび）がにらんで

たんだよ〉とか〈蛙（かえる）がいたからね〉とかいうんだって」

それから一度、おもどりさんとすれちがったことがある。彼女はうつむいていて眼はあいているのかいないのか、わからなかった。そして唇（かみ）が微かに動いていた。あれは何かを考えているせいだったのだろうか。それとも祈（いのち）っていたのだろうか。それとも魔（ま）よけの呪文（まじない）でもとなえていたのだろうか。

町は、そんな不幸な老いた女を、やさしくあつかっていた、と思う。彼女が歩いていても、だれもいじめもしなければ、からかいもしなかった。好

奇の目でじつと見つめる者がいれば、それはよその町からのシンザン^イ者にちがいがなかった。彼女は、歩きたいように歩くことが出来た。自転車の多い町だが、彼女がけがをした、というはなしを聞いたことはなかった。

おもどりさんにも、いろいろな状態のときがあった。かなりの距離を歩いても、さしつかえることなく前に進めることもあった。そうかと思うと、五メートルもいかないうちに、またもどつてしまい、しだいに後退していくときもあった。町の人々は、仕事をしながら、ちら、と彼女の状態を見て、「ああ、今日は具合がいいようだ」とか「どうも婆さん、いけないな。わるくなってるんじゃないかな」と心にかけてりした。

たつた一度だけだつたが心ないことをする二、三人のこどもたちを見たことがあった。かれらは、彼女があるいてくると、十メートルほどはなれてそのあとをついて歩いた。彼女がむきをかえるといっしょになつてむきをかえた。しかし、不幸なひとは、こどもたちのわるさなど歯牙^{しが}にもかけなかった。いつもと同じ姿勢で、まったく変わりなく振る舞つた。そんなとき、彼女の姿は必死で大事なことを遂行しているように見えた。すぐに飽いてこどもたちは散つた。しかし、おもどりさんの様子は、やはり同じだつた。そのまま歩き続けた。

そんな情景を目撃したある日、わたしは、おもどりさんのことを考えた。すでに、わたしは、さして濃くはない鬚^{ひげ}が伸びている高校生だつた。わたしは彼女のことはまるで知らなかつたし、知ろうとも思わなかつた。だれかに聞けば、詳しいことがわかつたろうが、そんなことをする気持ちにはなれなかつた。わたしの前には、その歩く姿だけがあつた。

〈おもどりさんは、いつもどこへ行くのだろう〉と思つた。用があつてどこかへ行くのだろうか。多分そうなのだろう。

どこへ行くのかわからないが、この人は必死なのだ、と思つた。目的地にたどりつくということは、わたしたちとちがつて、彼女にとっては大変なことなのだ。いったん門を出れば、目的地にたどりつくまでは血みどろの苦しみのだつた。いくら心は、はやつても、思うようにはならないのだ。それでも彼女は出掛けなければならない。^Dおもどりさんは、たたかっているのだ、と思つた。

(三木卓「おもどりさん」による。設問の関係上、本文を改変したところがある。)

(注) 1 焼夷筒——中に薬剤をつめて何本か束にして焼夷弾の中に入れ、敵の建物や陣地を焼き払う。ここでは薬剤が燃え尽きたあとの筒。

2 甘藷——サツマイモ。

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 20、イが 21。

ア ショウモウ					イ シンザン				
(e)	(d)	(c)	(b)	(a)	(e)	(d)	(c)	(b)	(a)
モウソウ癖がある	タイヤがマモウする	イチモウ打尽	モウゼンと立ち向かう	モウテンを突く	シンザンをなめる	老いてムザンな姿	サンセイ多数	ザンパンをたい肥にする	サンギ院議員

問二 空欄 X に、次に示す(1)～(4)の文を並べ替えて入れるには、どのような順序で並べ替えたらいいか。最も適切なものを、次の選

択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、22。

- (1) 老婆は急用があつて急いでいる、という風情だった。
- (2) 下駄は前歯と板の前だけを使い、後の歯は宙に浮いているように思われた。
- (3) かかとからくるぶしのあたりの肉が削げていて筋だけが突っぱっているのが見えた。
- (4) 灰色の着物を着ていて素足に下駄をつっかけていた。

- (a) (1) ↓ (3) ↓ (4) ↓ (2)
- (b) (4) ↓ (2) ↓ (1) ↓ (3)
- (c) (3) ↓ (2) ↓ (4) ↓ (1)
- (d) (4) ↓ (3) ↓ (1) ↓ (2)
- (e) (3) ↓ (1) ↓ (4) ↓ (2)

問三 傍線部A「すぐむようにして」の意味を表しているものとして、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

い。解答番号は、23。

- ① 肩を少しあげて
- ② 伸びあがって
- ③ からだをかたくして
- ④ うしろに下がって
- ⑤ 前のめりになって

問四 空欄 Y に入る表現として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、24。

- ① 幸せな
- ② 不幸な
- ③ 幸運な
- ④ 不運な
- ⑤ 必死な

問五 傍線部B「やさしくあつかっていた」の説明として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、25。

- ① あいさつをしたり、どこに行くのかと声をかけたりするようにした。
- ② 好きなように好きなどころを歩くままに、そっとしておいた。
- ③ 時には一緒に歩いてあげたり、後ろをついていつてあげたりした。
- ④ 食べものを差し入れたり、必要なものを買ってきてあげたりした。
- ⑤ 彼女がけがをしないように、彼女が歩いている道を自転車を通らなかった。

問六 傍線部C「知ろうとも思わなかった」根拠として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。 解答番号

は、26。

- ① 老婆の歩く姿が彼女の存在そのものであると思っていたから。
- ② 老婆が誰であるかを知るとめんどろなことになるそうだったから。
- ③ 思春期の「わたし」は自分以外の他人に興味がなかったから。
- ④ 老婆が誰であるかを聞くのがはばかられる町の雰囲気があったから。
- ⑤ 老婆が目的地にたどりつくことこそが重要だと思っていたから。

問七 傍線部D「おもどりさんは、たたかっているのだ、と思った」を説明する内容として、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の

記号をマークしなさい。 解答番号は、27。

- ① おもどりさんは、見えない敵から逃れるために一生懸命歩いている。
- ② おもどりさんは、目的地を忘れてしまったので、一生懸命目的地をさがしている。
- ③ おもどりさんは、思うようにならなくても、どんなことがあっても、目的地をめざさなければならない。
- ④ おもどりさんは、何もすることがないので、たいくつな日常に負けないように一生懸命歩いている。
- ⑤ おもどりさんは、心ないひとたちの視線に負けないように、ひたすら歩き続けている。